

1 総括についての評価

現在（28年2月）の学校現状は、生徒自らが学校生活に目標を持ち、主体的に学習および部活動を行う学校に改善されてきた。

朝の登校では、8時25分にはほぼ全員が登校できる。遅れそうになれば走って登校する姿が当たり前になった。

生徒会活動では、1か月の目標を校門に張り出し、みんなで守り、作り上げる学校づくりが進んでいる。

学力面では、授業規律を大切にした授業の確立と魅力ある授業内容の工夫を行った。また、教科、学年で、漢字検定の取り組みを活用し、家庭学習の習慣化に取り組んだ。習熟度別学習の定着や学習サポーター制度の活用、不登校傾向の生徒への支援体制（生活指導支援員の配置）など、きめ細かな学習支援を確立させ、落ち着いた環境の中で教育内容の充実を図った。

数値では、「学校の規則を守っていますか 92.4(26年度 80.7)」目標(95)には届かないが、11.7%上昇した。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか 91.0(26年度 87.2)」目標(5%上昇)の達成はできなかったが、3.8%上昇し、25年度(90.9)をも上回った。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：学力の向上

取組内容①【 習熟度別少人数授業の実施】

国語・数学・英語の3教科では、授業内容、授業形態の工夫を含め、きめ細かな指導により、個に応じた学習指導を行う。定期テスト、実力テストで「知識理解、思考力、判断力、表現力など基盤となる評価項目に沿って問題作成する。国語科では、漢字検定（1, 2年）を実施し、学習意欲の向上を図る。

取組内容②【 授業力向上のための研究授業及び教員相互参観の充実】

・教員相互による授業方法を交流し、「発問の仕方」「学習規律」「課題の設定」など教師力の向上を図る。研究協議の充実を図り、明日につながる授業づくりに生かし、生徒へ「わかる授業づくり、魅力ある授業」を提供する。

取組内容③【 定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】

家庭学習習慣定着のための、各教科による日々の宿題の提示。週末には、課題学習の提示および点検。学習習慣の定着をめざす。学校元気アップ地域本部事業による自学自習力確立への手立て提示する。

取組内容④【 小中一貫教育の推進】

9年間を通して、めざす子ども像「場の応じたあいさつがしっかりできる児童・生徒を育てる」を目標に、教育内容を充実させる。

学校秩序の回復・維持・発展と学力向上の関連性は必然である。

生徒アンケートより「時間を守る(90%)」「ルール・マナーを守る(91%)」と指導が浸透し、「楽しく学校生活を送っている(85%)」と安心して学校生活を送れる雰囲気がてきた。

学力面では、授業規律の徹底を図り、分かる授業の創造に取り組んできたが、「授業はわかりやすい 68% (26 年度 53%)」と改善はみられるが、まだまだ低い。

習熟度別学習定着や学習サポーターの導入などきめ細かな指導を推進された。また、1, 2 年生では漢字検定を受検させた。週末課題、長期休業中の課題などで学習習慣の定着を図られた。教員の相互参観や研究・公開授業は充実され、教員相互の授業力向上を図られた。

「発表や話し合いなどを取り入れた授業を積極的に行っていける」の項目では、57% で目標達成 (60%) を下回った。また、学習習慣においては、「家庭で復習をしない 34.1% (26 年度 40.7%)」「予習をしない 37.9% (26 年度 52.1%)」など、改善はみられるがまだまだ低い。家庭学習習慣への啓発および学習への意欲向上を図る必要がある。

年度目標：道徳心・社会性の育成

取組内容①【道徳教育の推進】

道徳教育委員会を中心に年間指導計画・読み物も教材指導案を作成する。

生徒一人ひとりに、「自分の生き方を見つめ直し、これからの生き方にどういかしていくか」という課題設定で実践を行う。

取組内容②【規範意識の向上】

- ・「言葉づかいいは心づかいい」「元気よく・気持ちよく、あいさつしよう」の実践。身だしなみを整え、生徒自らに『時間を守る』姿勢を身につけさせる。
- ・体罰根絶への指導体制を確立させ、生徒理解を深める研修会および相談活動の実施

取組内容③【キャリア教育の推進】

キャリア教育年間計画に沿って、系統立てた教育内容を推進する。

取組内容④【防災教育の推進】

「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。

取組内容⑤【不登校傾向生徒への対応】

生徒の状況把握を図り、全教職員で共通理解し、個別の具体的な手立てを講じる
日常的にカウンセリングを行い、生徒の心の変化を早期に把握する

本日の学校見学の様子やアンケート結果から、学校の学習環境が安定し、子どもの意欲を引き出す取組に成果が表れている。

1. 道徳教育では、週 1 回の道徳で読み物資料を活用している。授業では、自分の考え方や人の発表を聞いて、人間としての生き方を学ぶ機会として継続している。

1 年生では朝読書に教室文庫をつくり、読み物資料冊子を読んでいる。

2. 防災教育では、2年生で「地域防災リーダー育成研修」を消防署と連携して行った。災害時の適切な動きを身につけることはもちろん、災害時に地域で活躍できる生徒の育成を目指し、防災の担い手としての意識向上を図った。
- また、全校生徒で町会別下校訓練を実施した。
3. 「登校遅刻ゼロ」の取り組みは、25分登校がほぼできてきている。20分ごろから校門まで走って登校する生徒の姿は、学校改善が進んできた成果である。一方、遅刻生徒の固定化が見られる。
4. 不登校生徒への対応は、生活指導支援員の配置により、別室で学習する生徒への対応の充実を図った。多様な対応が必要な生徒へは、主任会できめ細かい指導体制の確立を図った。

年度目標： 健康・体力の保持増進

取組内容①【 体力向上の推進 】

基礎体力の向上を目指し、全国体力・運動能力、運動習慣調査の各種目のなかで、「立ち幅とび」は昨年度より5ポイント増加させる。「上体起こし、長座体前屈」を昨年度より2ポイント増加させる。

取組内容②【 食育の推進 】

食に関する知識と食習慣を身につけるための教育活動を進める

取組内容③【 健康に関する指導の推進 】

発達段階に応じた健康に関する指導を系統的に行う。

学校生活全般において、目的意識を持ち取り組む素地づくりを保健体育の授業内で取り組んでいる。その成果として、何事においても真摯に取り組む姿勢が身に付きつつあり、このことが基礎体力の向上につながったと思われる。

今後も、全ての教科・領域等の教育活動を通じて、あたりまえのことをあたりまえに取り組むことのできる態度を育成してもらいたい。

保護者に対し食育への意識変革及び基本的生活習慣の定着など家庭教育の更なる啓発を図る必要がある。

年度目標：学校・家庭・地域の連携の推進

取組内容①【地域防災訓練・大和川清掃への生徒参加】

防災教育の一環として、地域防災訓練に参加する。大和川清掃活動を通して、地域と郷土を愛する心を育てる。

取組内容②【 地域 音楽祭の開催 】

大和川中学校、遠里小野小学校、山之内小学校、建国中高等学校、浪速中高等学校、ゆうけい（特別養護施設）を含む関連組織と連携会議を開催する。

取組内容③【 学校・地域連携組織の確立 】

地域関連行事を把握し、組織的に教職員、生徒の参加を行い、地域連携を進める。

今後、「顔の見える地域の輪の拡大と防災での連携を意識した取組を視野に入れ、ゆうけい（特別養護老人施設）地域連合町会、はぐくみネット、学校元気アップ地域本部と地域教育コミュニティを総結集し、地域総合防災連携組織づくりへ発展させていく事業にする。

「災害に強い町づくり」にむけて地域防災訓練への生徒の積極的な参加による地域の担い手としての中学生のあり方を区行政、町会組織と連動して作り上げる。

災害時を想定した地域防災訓練の実施。また生徒が地域別防災訓練への担い手となる取組みへの企画・運営など地域密着の生徒育成の充実を図る。

3 今後の学校運営についての意見

学校改善が大きく進み、生徒の頑張る報告をたくさん聞かせていただいた。今後も、様々な教育内容を発信していただき、学力向上や体力向上面、部活動面など生徒の頑張りを発信してほしい。また、生徒と先生との信頼関係が十分図れる学校環境づくりをお願いします。